様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 14 日現在

機関番号：15401
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：21300262
研究課題名（和文）　CoP-AAE の構築による心と体を育む動物介在教育プログラムの開発

研究課題名（英文）　Development of Animal Assisted Education Program through the construction of CoP-AAE

研究代表者
谷田　創（TANIDA HAJIME）
広島大学・大学院生物圏科学研究科・教授
研究者番号：20197528

研究成果の概要（和文）：
本研究は，「CoP-AAE：動物介在教育のための実践コミュニティ」の構築による心と体を育む動物介在教育プログラムの開発を目指すものである。日本では、幼稚園などで動物を飼育して、子供達の情操教育に生かすという伝統があるが、実際には、幼稚園の教育の知識不足などから、効果的な教育が実施されず、その結果、飼育動物の福祉も脅かされている。そこで本研究では、Cop の構築を通した異分野の共同研究と相互交流により、幼稚園のための動物介在教育プログラムを完成させた。

研究成果の概要（英文）：
Traditionally, most Japanese kindergartens have kept many small animals to provide positive effects on the behavioral and emotional development of children. However, some studies have indicated several issues in animal welfare such as unsanitary animal housing in Japanese educational facilities. The aim of this study was therefore to develop the animal assisted education program through the construction of Cop-AAE which consists of researchers who have different study area.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2010 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2011 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総　計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：人間動物関係学
科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般
キーワード：動物介在教育、保育、人間動物関係学、飼育動物、動物福祉

１．研究開始当初の背景
地域社会では子どもたちによる凶悪犯罪が増加し、自殺につながる悪質ないじめが横行するなど、子どもの心の荒廃が深刻化している。文部科学省の調査では、2006 年度に全国の小中高校でいじめとして認知された件数は 12 万件を超え、自殺した児童・生徒は 171 名にも上った。利己的な欲求を抑制することができず突然にキレる子どもや、他者を傷つける子どもたちが急増しており、中教審は、生き物とのふれあいを通して命の大切さを実感させることを提言しており、生き物を

通した教育の重要性を指摘している。
「動物介在教育」は、「動物介在療法」と「動物介在活動」の効果を教育に応用したものであり、生き物との交流を通して、他者の気持ちや痛みを察する心と習慣を身につけ、思いやりと共感の眼差しを向ける人間を育てることを目的としている。
国内における「動物介在教育」に関する研究は比較的少ない。応募者は、これまで国内の幼稚園における動物飼育の現状に関するフィールド調査を行ってきた（谷田ら,2001）。その結果、ウサギなどの飼育が最も一般的であったが、施設の不備、不適切な飼育管理、教員の知識不足など多くの問題を抱えていることが明らかとなった（谷田ら,2001）。そこで応募者は、動物福祉（動物の能力や習性に応じた適切な飼育管理）の向上に関する研究を並行して行い(谷田ら,2008)、適切に飼育された健康な動物による教育の実践を目指してきた。一方、近年、食育推進基本計画（2006）において「農作業等の体験の機会を提供する教育ファームを推進する」ことが推奨され、食と農を一体化して教える「食農教育」の必要性が重視されている。そこで応募者は、「食農教育」と「動物介在教育」を組み合わせた「家畜介在型食農教育プログラム」の開発にも取り組んできた(谷田ら,2008)。
国外では、動物飼育が子どもに及ぼす効果についての研究が進んでいる。子どもにとって動物は、伴侶、友達、仲間、崇拝者、親友、信頼できる存在であり、子どもの学習の支援、精神的外傷の緩和、情緒的問題の軽減、精神衛生の向上という役割のあることが報告されている(Levinson,1962, 1964, 1967, 1969,1972)。特に犬には子どもの心を安定させる効果があると言われている（Heiman,1965）。また、動物飼育には様々な教育的効果があることも報告されている（Blue, 1986; Frith, 1982; Bailey,1988; Covert et al., 1985; Davis, 1987; Mader et al., 1989）。また、ペットを飼育することで子どもの共感能力が高まることも明らかとなっている（Bryant, 1985; Poreskey and Hendrix, 1990）。またペット飼育は子供の知能、運動能力、社会性の発達に影響し、特にペットに対する絆が強いほど共感性が高くなると言われている（Poresky, 1996）。さらに、子どもとペットの絆は、認知能力の発達（Kidd and Kidd,1985）や社会的順応(Melson and Taylor,1990)を促進するという報告もある。

２．研究の目的
本研究の目的は、子どもたちの健全な心と体の育成にある。わが国の子どもたちを取り巻く近年の社会環境は、経済効率一辺倒による競争至上主義の蔓延、物質的豊かさの追求、無秩序な開発による自然環境の破壊、核家族化による世代間の絆の消滅、食と農の乖離による食に対する認識の低下や食生活の乱れ、ゲームへの過度の依存による現実世界とバーチャル（仮想）世界の混同など、心と体の育成にとって決して望ましいものではない。特に、自然の中で体を動かしながら生き物に触れたり自らの手で植物や動物を育てたりするなど、生き物の誕生・成長・死を肌で感じる体験を喪失している。その結果、早くから競争意識のみが芽生え、他者と協力して遊び学ぶ喜びを知らない子どもが増え、運動機能の低下や不規則な食生活からくる成人病の増加も顕著になっている。その結果、肉体的に不健康で、自己抑制のきかなくなった子どもが増加しており、それが、不登校の常態化や、いじめによる自殺の増加、犯罪の低年齢化と凶悪化、学級（学校）崩壊などにつながっているという指摘がある。
そこで本研究は、動物介在療法の流れを汲む「動物介在教育」を通して、「いのち」の大切さ、他者への思いやり、自然環境への配慮を教えることで、肉体的にも精神的にも健康な子どもたちを育てることを目的とする。具体的には、様々な分野の専門化が研究分担者・研究協力者として参加する「CoP-AAE：動物介在教育のための実践コミュニティ」の構築を通して、幼稚園で実践可能な「子どもたちのための心を育む動物介在教育プログラム」の開発に取り組む。

３．研究の方法
平成２１年度には、「動物介在教育実践コミュニティ」を立ち上げることとした。平成２２年度には、「動物介在教育プログラム」実施前の評価調査として、１）幼児に対して、動物、自然、食に関する意識（愛着度を含む）調査を、２）教員に対して、動物、自然、食に関する意識（愛着度を含む）調査を、３）介在教育に用いる動物（小動物、犬、家畜）に対して、動物の福祉、健康、飼育状況の調査を実施することとした。さらに、教育プログラムを現場で実践するとともに、幼児と動物の活動などの変化を１年間にわたりモニタリングすることとした。平成２３年度には、平成２１年度と同様の方法で「動物介在教育プログラム」の効果を評価するとともに、平成２２年度のモニタリングの結果と合わせてプログラムの改善点について検討し、幼児教育の現場で実践可能な「動物介在教育プログラム」を完成させることとした。

４．研究成果
本研究は，「CoP-AAE：動物介在教育のための実践コミュニティ」の構築による心と体を育む動物介在教育プログラムの開発を目指すものであり、その核となるそれぞれの研究分

担者と研究協力者が共同することによって、「子どもたちのための心を育む動物介在教育プログラム」に関する研究を実施することができた。特に平成 23 年度は，帝京科学大学の木場氏と広島大学の森元氏を研究分担者に加えることにより、「飼育動物を通した動物介在教育プログラム」「動物を含む自然環境を通した教育プログラム」「犬の訪問活動を通した動物介在教育プログラム」の研究を行い、幼稚園の現場に対応できるプログラムの開発を試みた。一方で、実践コミュニティの構築については、研究代表者と分担者が所属する広島大学の農学系の学生（飼育動物や家畜に関する専門知識を有した学生)、研究分担者が所属する福山平成大学の教育学系の学生（将来的に幼稚園・保育園で保育者を目指す学生)、研究協力者が所属する広島アニマルケア専門学校の学生（犬の訓練に関する専門知識を有した学生)、広島大学附属三原幼稚園の保育者が相互に交流できるシステム作りができた。この CoP により、これまでには不可能であった異分野間の共同研究と相互交流が可能となった。また、これらの研究成果の一部を、国内学会及び国際学会で発表するとともに、幼稚園などの保護者と保育者を交えた研修会でも報告することができた。さらに平成 24 年後半には、これらの研究成果を基に、幼稚園，保育園，小学校の教員及び保護者向けに「幼児のための動物介在教育ハンドブック」あるいは「幼児のための動物介在教育入門書」を出版する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

１． 飯野祐樹・七木田　敦・大野　歩，スウェーデンにおける就学前動物介在教育に関する研究-「森のムッレ教育」からの検討-，幼年教育研究年報，33 巻，2012，(印刷中)（査読有り）

２． 森元真理・三上崇徳・木場有紀・谷田 創，広島県下の幼稚園における動物介在教育に関する研究―ニュースレターの配布を通して教師の動物飼育に対する意識の向上を図る試み―，科学教育研究，35 巻，2011，pp179-190（査読有り）

３． 谷田　創・木場有紀・森元真理，「CoP-AAE の構築を通した幼児のための動物介在教育プログラム開発」の取り組み，広島大学大学院瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター報告，8・9 巻，2011，13-17　（査読無し）

４． 七木田　敦・飯野祐樹，障害児保育施設における動物介在教育の実践について-オーストリア・グラーツ市からの報告，幼年教育研究年報，32 巻，2011，81-86　（査読有り）

５． 七木田　敦，協応動作を育てる－不器用な子どもたちへの運動発達支援－発達教育，30 巻 2011，pp4　（査読有り）

６． 谷田　創・木場有紀・森元真理・金岡美幸・掛　志穂・君岡智央・吉原智惠美・中山芙充子・池田明子・井上由子・東 加奈子・坪田志保・山中覚美・宮谷智子，大学附属農場を活用した幼児に対する家畜との関わりを通した食農教育に関する研究－「CoP-AAE：動物介在教育のための実践コミュニティ」構築の試み－．広島大学学部・附属学校共同研究紀要，2010，38 巻 pp93－98．（査読無し）

７． 谷田　創・木場有紀・森元真理，大学附属農場を活用した幼児に対する家畜との関わりを通した食農教育に関する研究－広島大学大学院瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター報告．2010，7 巻，pp1－14　（査読無し）

８． 大野 歩・真鍋 健・岡花祈一郎・七木田敦，幼稚園における非日常的な体験とその意味について－幼児たちはどのようにゴーリーと出会うか－，保育学研究，2010，48 巻，pp47-57.　（査読有り）

９． 佐藤智恵・真鍋健・七木田 敦，保護者・保育者・大学専門機関を繋ぐ指 導体 制について－保育園における個別指導実施を通して－，幼年教育研究年報，2010，32 巻，pp81-86.（査読無し）

１０． 三上崇徳・木場有紀・谷田 創，幼稚園で飼育されているウサギに対する環境エンリッチメント器具の開発-ラビットバロウの導入効果の検討-．日本動物介在教育・療法研究会，2009，1 巻，pp17－24.（査読有り）

１１． 堀見敏洋・木場有紀・三上崇徳・森元真理・谷田 創，広島県の私立幼稚園におけるウサギの飼育状態に関する調査，こども環境学会誌，2009，13 巻，pp88－93（査読有り）

１２． 木場有紀・渡辺　恵・高橋健太郎・藤井賢一・増岡史朗・宮原達也・望月翔太・橋本　昭・谷田　創，高齢者福祉施設における犬を介在させた AAA に対する施設利用者・職員・活動実施者の意識の比較，ヒトと動物の関係学会誌，2009，23，60－68.（査読有り）

１３． Iino, Y.・Nanakida, A.，A Study on the Potential Utilization of Portfolio among Coordinator in Kindergartens and Nursery Schools in Japan. The Annual of Research on Early Childhood. 2009, 31, 55-62.（査読有り）

１４． 七木田　敦，子どもの声を聞き取る--コミュニケーションの語法について，教育と医学，2009，57 巻，pp108－114.

（査読有り）

〔学会発表〕（計 16 件）

1. 森元真理・木場有紀・谷田　創、「幼稚園における動物飼育に関する研究-ウサギに対する『名づけ』が飼育環境に及ぼす影響について-」，こども環境学会 2012 年大会，2012 年 4 月 20 日，仙台国際センター.
2. 森元真理・木場有紀・谷田 創，幼児を対象とした飼育動物介在型教育プログラムの開発に関する研究～幼稚園における幼児と飼育動物とのエピソード記録に関する一考察～，第 4 回日本動物介在教育・療法学会学術大会，2012 年 3 月 25 日，麻布大学（8 号館 8301 教室）
3. 岩本　彩・谷田　創，乗用馬の日中の活動が夜間の休息に及ぼす影響ー馬を活用した動物介在教育プログラムの開発ー，ヒトと動物の関係学会第 18 回学術大会，2012 年 3 月 10 日，東京大学（農学部 1 号館 8 番教室）
4. 木場有紀・生田和歌子・雁林　南・篠原加緒里・藤原加代子・望月悦子・谷田　創，保育者を目指す教育系学生が卒業論文研究を通して見た幼稚園のウサギ，ヒトと動物の関係学会第 18 回学術大会，2012 年 3 月 11 日，東京大学（農学部 1 号館 8 番教室）
5. 佐藤智美・橋本　昭・清水純一・木場有紀・谷田　創，幼稚園に対する犬の訪問活動を通した動物介在教育に関する研究Ⅲー犬の訪問活動教育プログラムの構築ー，ヒトと動物の関係学会第 18 回学術大会，2012 年 3 月 11 日，東京大学（農学部 1 号館 8 番教室）
6. Morimoto, M.・ Koba, Y. ・Tanida, H., Study on conditions of rabbits kept for educational use inkindergartens of Hiroshima prefecture, Japan, 20th International Congress of the International Society for Anthrozoology, 1 Aug 2011, Indianapolis, Indiana USA
7. 森元真理・木場有紀・谷田 創，幼児を対象とした動物介在教育プログラムの開発に関する予備調査～飼育動物との関わりにおける保育者の介在が幼児の発話と行動に及ぼす影響について～，ヒトと動物の関係学会第 17 回学術大会，2011 年 6 月 25 日，東京大学（農学部 2 号館 化学第一講義室）
8. Tanida, H., Study of Cognition in Farm Animals from the Viewpoint of Animal Welfare-the Relationships between People and Farm Animals, International Symposium on Animal Welfare, May 6-9, 2011, Nanjing Agricultural University, China
9. 森元真理・木場有紀・谷田　創，幼児を対象とした動物介在型教育プログラムの開発に関する予備調査～飼育動物との関わりにおける保育者の介在が幼児の発話と行動に及ぼす影響について～，ヒトと動物の関係学会第 17 回学術大会，2011 年 3 月 13 日，東京大学農学部弥生講堂
10. 真鍋健・七木田　敦，障害のある子どもの移行支援に関する実践研究―機 関・ 施設間移行での連携方法に注目して，日本特殊教育学会第 48 回大会，2010 年 9 月 18 日，長崎大学
11. 谷田 創，地域をつなげる食育環境マップ，食育からはじまる子育て支援研修会，2010 年 10 月 2 日，今治市民会館
12. 大野歩・七木田　敦，スウェーデンの就学前教育に関する研究 - 義務教育課程との評価の連続性に着目して - ，中国四国教育学会第 62 回大会，2010 年 11 月 20 日，香川大学
13. 森元真理・木場有紀・谷田　創，幼児を対象としたに飼育動物介在型教育プログラムの開発に関する予備調査，第 59 回日本理科教育学会中国支部大会，2010 年 12 月 4 日，山口大学共通教育棟
14. 森元真理・木場有紀・谷田　創，幼稚園における動物飼育に関する研究 ～教員が必要とする情報とは～，子ども環境学会 2010 年大会，2010 年 4 月 24 日，広島市まちづくり市民交流プラザ
15. 望月悦子，育てよう、今こそたくましく生きる子どもを一自然体験を通して一，三原市立田野浦幼稚園教育研究会，2010 年 11 月 10 日，三原市立田野浦幼稚園
16. 望月悦子，幼児期に育てたいコミュニケーション力の土台，三原市立沼田東幼稚園教育研究会，2010 年 10 月 27 日，三原市立沼田東幼稚園

〔図書〕（計 1 件）

望月悦子・森元眞紀子・平岡弘正・小野順子，　準備と自己評価で実力を養う幼稚園教育実習.平岡弘正 監・著，森元眞紀子・小野順子　編著，ふくろう出版，2011，160pp

〔その他〕

ホームページ等

「広島大学動物介在教育プロジェクト（ACE）」

http://home.hiroshima-u.ac.jp/aae316/

６．研究組織

(1)研究代表者

谷田　創　（TANIDA HAJIME）

広島大学・大学院生物圏科学研究科・教授

研究者番号：20197528

(2)研究分担者

七木田　敦　（NANAKIDA ATSUSHI）

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：60252821

望月　悦子　(MOCHIZUKI ETSUKO)
福山平成大学・福祉健康学部・教授
研究者番号：80389080

木場　有紀　(KOBA YUKI)
帝京科学大学・こども学部・講師
研究者番号：30610703
（H23→）

森元　真理　(MORIMOTO MARI)
広島大学・大学院生物圏科学研究科・特任助教
研究者番号：30611678
（H23→）

(3)連携研究者
(　　)
研究者番号：